

2022 年度ユネスコスクール活動調査の結果（概要）（案）

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）では、文部科学省から委託を受け、ユネスコスクールと ESD（持続可能な開発のための教育）の推進を目的として、ユネスコスクール活動調査を毎年おこなっています。この度、2022 年度の調査結果を取りまとめましたので公表します。

1. 調査結果から見る主な成果

① SDGs の 17 の各目標に対する取組について

SDGs の 17 の目標のうち、教育活動に取り入れた特に関連する目標上位 5 つは下記の通りである。目標 16（平和）が昨年度よりも上位に入った（昨年度 8 番目）。各校で SDGs の 17 の各目標に対する取組が進められている。

- ・ 目標 11（持続可能な都市）—61.5%
- ・ 目標 12（持続可能な生産と消費）—29.0%
- ・ 目標 3（保健）—27.6%
- ・ 目標 4（教育）、目標 16（平和）—25.6%

② 新型コロナウイルス感染症による影響について

新型コロナウイルス感染症によるユネスコスクールの活動への影響について、昨年度はあったとの回答が 85.4%であったが、今年度は 65.5%に減少した。2022 年度は規制が少しずつ緩和され往来が増えてきた（図 14）と共に、コロナ禍の中で ICT 環境整備が進み（図 7）オンラインでの授業や交流が浸透してきたためと推測できる。

③ 学校間交流について

国内の学校と交流したと回答した学校は 46.2%（昨年比 6.0%増）、海外の学校と交流したと回答した学校は 24.2%（昨年比 5.7%増）となり両者とも増加した。②と同様、規制の緩和およびオンライン交流の浸透が理由として推測できる。その一方、交流しなかったと回答した学校は昨年度より 9.4%減ったものの 42.5%と依然高い数値に留まっている。ユネスコスクール公式ウェブサイトの学校間交流ページや他校の交流事例を参考に、また、ASPUnivNet などの支援を活用しながら、新たな交流活動を展開していくことが期待される。

④ ユネスコスクールの教育活動に対する評価について

ユネスコスクールの教育活動を評価するための工夫について、昨年度はしているとの回答が 56.6%であったが、今年度は 68.3%に増加した。年々評価に対する認識が高まっていると言える。また評価方法（図 33）については、今年度より「振り返り記述などのアンケート」および「ポートフォリオ」が新たに選択肢へ追加されたことで、「その他」の回答が 6.2%（昨年比 20.7%減）となった。と同時に、各校が評価方法として「振り返り記述などのアンケート」（69.8%）や「ポートフォリオ」（37.5%）を多く実施していることが分かった。

⑤ ESD を実践したことによる教員の主な変化について

ユネスコスクールへ加盟後、ESD を実践したことによる教員の主な変化（上位 3 つ）は下

記の通りである。ESD を意識したカリキュラムの実践の回答割合が高いまま推移している。

| カリキュラム・教授法の変化

- ・ 教科領域を超えて横断的に取り組むなどカリキュラムマネジメントを工夫するようになった—59.6%
- ・ 児童・生徒自らが問題意識をもち課題を発見できるようなカリキュラムを開発するようになる—54.3%
- ・ 持続可能性に関する価値観をもとに授業等を見直す機会をもたらし—48.6%

| 学校運営の変化

- ・ 学校全体で ESD に取り組む機運が高まった—54.3%
- ・ 教員が積極的に地域の方々と交流し、双方の信頼関係が深まった—47.0%
- ・ 教員間で持続可能性に関する価値観を話し合う場をもつことができるようになった—39.3%

2. 調査結果から見る主な課題

① 研修への参加について

校外における ESD・ユネスコ活動に関する研修への参加の有無について、「いいえ」の回答が（64.7%）となっている。ユネスコスクール全国大会・地方大会や公式ウェブサイトで広報しているイベントを、学校にとって魅力ある内容に洗練する必要がある。

② ユネスコスクール活動支援の活用について

ユネスコスクール事務局の利用状況について「特になし」の回答が 40.1%、同様に ASPUnivNet からの協力や支援について「特になし」の回答が 78.2%となっている。2022 年度より始まったユネスコスクール定期レビューや公式ウェブサイト等で支援メニューを明示化し、広く周知する必要がある。また、加盟校・キャンディデート校と ASPUnivNet の連携強化も求められる。

3. 調査の概要

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）が文部科学省の受託調査として 2022 年 12 月 20 日～2023 年 3 月 31 日に実施。調査内容は 2022 年度の学校の取組（2021 年 12 月～2022 年 11 月）を対象としている。国内のすべてのユネスコスクールに対してウェブによる回答協力を依頼し、624 校（回答率約 56.0%）から回答を得た。

（調査実施元）

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-32-7F 出版クラブビル

TEL:03-5577-2852 FAX:03-5577-2854

E-mail:webmaster@accu.or.jp

ユネスコスクール公式ウェブサイト:<https://www.unesco-school.mext.go.jp/>

9月上旬公開予定

令和 4(2022)年度 文部科学省委託 ユネスコ未来共創プラットフォーム事業

2022 年度 ユネスコスクール年次活動調査結果（案）

目次

2022 年度ユネスコスクール年次活動調査に関して	1
2022 年度ユネスコスクール年次活動調査 結果	1
調査方法	1
今年度の活動についての調査	2
ユネスコスクールの位置付けについて	2
国内外の学校間交流について	7
学校以外の団体との協働について	12
ESD の推進拠点としての活動成果の発信	15
ユネスコスクールとしての活動の成果	16
ユネスコスクールが重点的に取り組む 3 つの分野	16
ESD と SDG _s の関係に関する認知度	17
ユネスコスクールとしての活動による変化	18
ユネスコスクール支援の利用状況	24

<図表目次>

図 1 担当者設置の有無.....	2	図 11 国内外の学校との交流(ユネスコスクールに限定しない)	7
図 2 ユネスコスクール担当者の役職	2	図 12 学校間交流を実施するようになったきっかけ.....	7
図 3 ユネスコスクール担当者の年齢層	3	図 13 国内外のユネスコスクールとの交流	7
図 4 学校全体で組織的・継続的に取り組むための工夫	3	図 14 国内のユネスコスクールと実施した交流活動方法.....	7
図 5 学校規模(幼児児童生徒数).....	4	図 15 国内のユネスコスクールと実施した交流活動内容.....	8
図 6 学校規模(教職員数).....	4	図 16 海外のユネスコスクールと実施した交流活動方法.....	9
図 7 校内における国内外のユネスコスクールの情報を取得できるICT 環 境の有無.....	5	図 17 海外のユネスコスクールと実施した交流活動内容.....	9
図 8 外国語での情報発信、交流の環境整備状況.....	5	図 18 海外交流校の国、地域名	10
図 9 ユネスコスクールの活動にかかる費用の捻出方法.....	5	図 19 交流しなかった理由	11
図 10 新型コロナウイルス感染症の流行によるユネスコスクールの活動へ の影響	6	図 20 学校以外の団体との連携の有無.....	12
		図 21 連携先の団体.....	12
		図 22 学校以外の団体との連携内容	13

図 23 校外におけるESD・ユネスコ活動に関する研修への参加の有無	14
図 24 ユネスコスクールに係る教育活動の実践等の発信、理念の普及	15
図 25 成果の発信・普及方法	15
図 26 ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野のうち、特に活動成果のあるもの	16
図 27 「ESD:SDGs 達成に向けて(ESD for 2030)」の認知度	17
図 28 SDGs 目標4(教育)ターゲット4.7の認知度	17
図 29 新学習指導要領(小中高等学校)又は新幼稚園教育要領前文におけるESDに関する文言の明記の認知度	17
図 30 ESDとSDGs17のゴールの関連性に関する認知度	17
図 31 ユネスコスクールにおける教育活動を通じた育みたい資質・能力の明確化	18
図 32 ユネスコスクールにおける教育活動を評価するための工夫	19
図 33 ユネスコスクールにおける教育活動を評価するための評価方法	19
図 34 最も変化の見られた「資質・能力の三つの柱」	19

図 35 最も変化の見られた持続可能な社会づくりを構成する6つの視点	20
図 36 ユネスコスクールの教育活動で取り上げたSDGs17の目標	21
図 37 ユネスコスクールの教育活動による教員のカリキュラム・教授法の変化	22
図 38 ユネスコスクールの教育活動による教員の学校運営の変化	22
図 39 ユネスコスクール事務局の利用状況	24
図 40 ユネスコスクール公式ウェブサイトの利用状況	24
図 41 ユネスコスクール公式ウェブサイト機能の利用状況	25
図 42 ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUivNet)からの協力・支援内容	26
表 1 ユネスコスクールの活動にかかる費用助成団体	6
表 2 新型コロナウイルス感染症の流行によるユネスコスクールの活動への影響	6

表 3 コロナ禍においてユネスコスクールの活動を展開するための工夫.....	6
表 4 国内のユネスコスクールと交流した際の主な成果.....	8
表 5 国内のユネスコスクールと交流した際の主な課題.....	8
表 6 海外のユネスコスクールと交流した際の主な成果.....	10
表 7 海外のユネスコスクールと交流した際の主な課題.....	10
表 8 海外交流に関する情報収集先	10
表 9 海外交流に関する支援団体/ネットワーク.....	11
表 10 外部団体と交流することになった主なきっかけ.....	13
表 11 外部団体と交流したことによる主な成果.....	13

表 12 外部団体と交流したことによる主な課題.....	14
表 13 研修会を主催していた主な団体.....	14
表 14 ユネスコスクール活動を通して身についた主な資質・能力	18
表 15 児童生徒の変化を促した主なきっかけ	20
表 16 教職員の変化を促した主なきっかけ	23
表 17 教職員の活動意欲が向上した主な取り組み	23
表 18 ユネスコスクール事務局に求める支援内容	24
表 19 質問5「その他」を選択した場合、簡潔にご記入ください。	26

2022 年度ユネスコスクール年次活動調査に関して

2022 年度のユネスコスクール活動調査(以下「活動調査」という)は、文部科学省から委託を受け、ユネスコスクール事務局である公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)によって 2022 年 12 月 20 日～2023 年 3 月 31 日の間に行われたものである。

この活動調査は、今後のユネスコスクールの活動の一層の振興に向けて、ユネスコスクールの現状、課題、成果等を把握することを目的に実施したものである。調査内容は2022年度の学校の取組(2021年12月～2022年11月)を対象としている。

本報告書内の記述回答に関する分析は、簡易的な記述統計から浮かび上がる論点について整理したものであり、厳密な統計分析作業を経て導かれたものではない。なお、複数回答可の設問では、数値の合計は 100%を超える場合がある。

2022 年度ユネスコスクール年次活動調査 結果

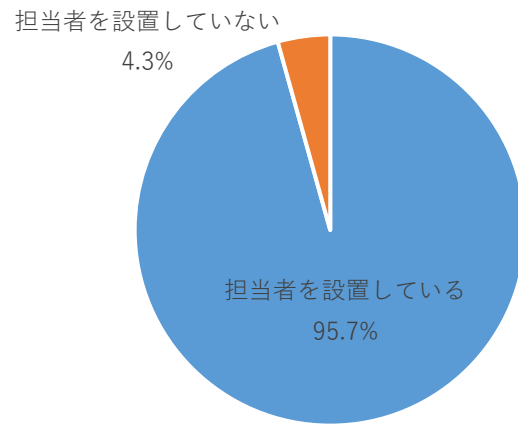
調査方法

2022 年度活動調査は、全ユネスコスクール加盟校 1,115 校に対してウェブ回答によって回答協力を募った。最終的には 624 校(回答率約 56.0%)から回答を得ることができた(前年度より 10.2%増↑)。活動調査の依頼方法は、公式ウェブサイトへの掲示、メールによるお知らせに加え、文部科学省から教育委員会を通じてユネスコスクールへメールにて周知をおこなった。

今年度の活動についての調査

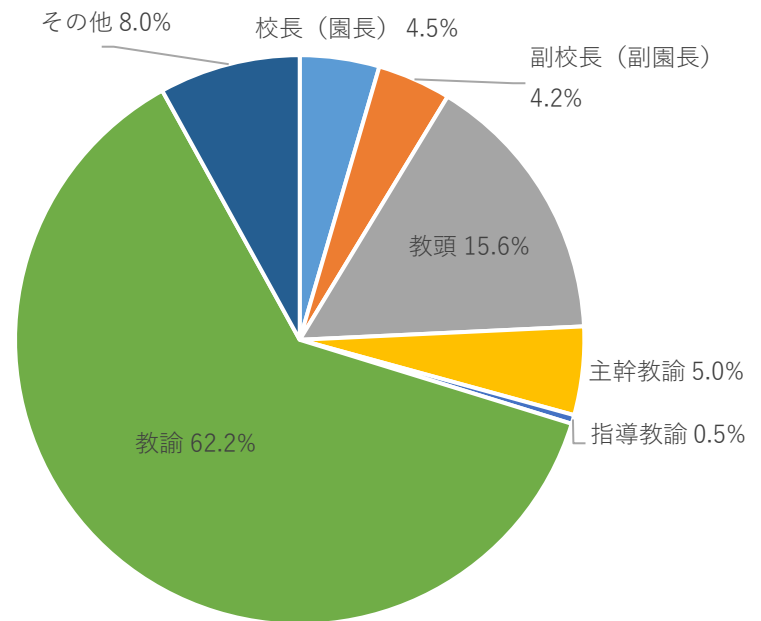
ユネスコスクールの位置付けについて

図1 担当者設置の有無



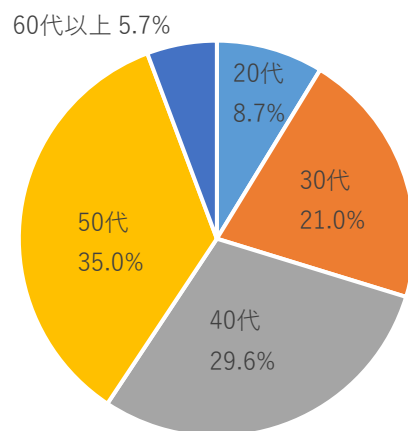
(参照:1. ① 質問1)(N=624)

図2 ユネスコスクール担当者の役職



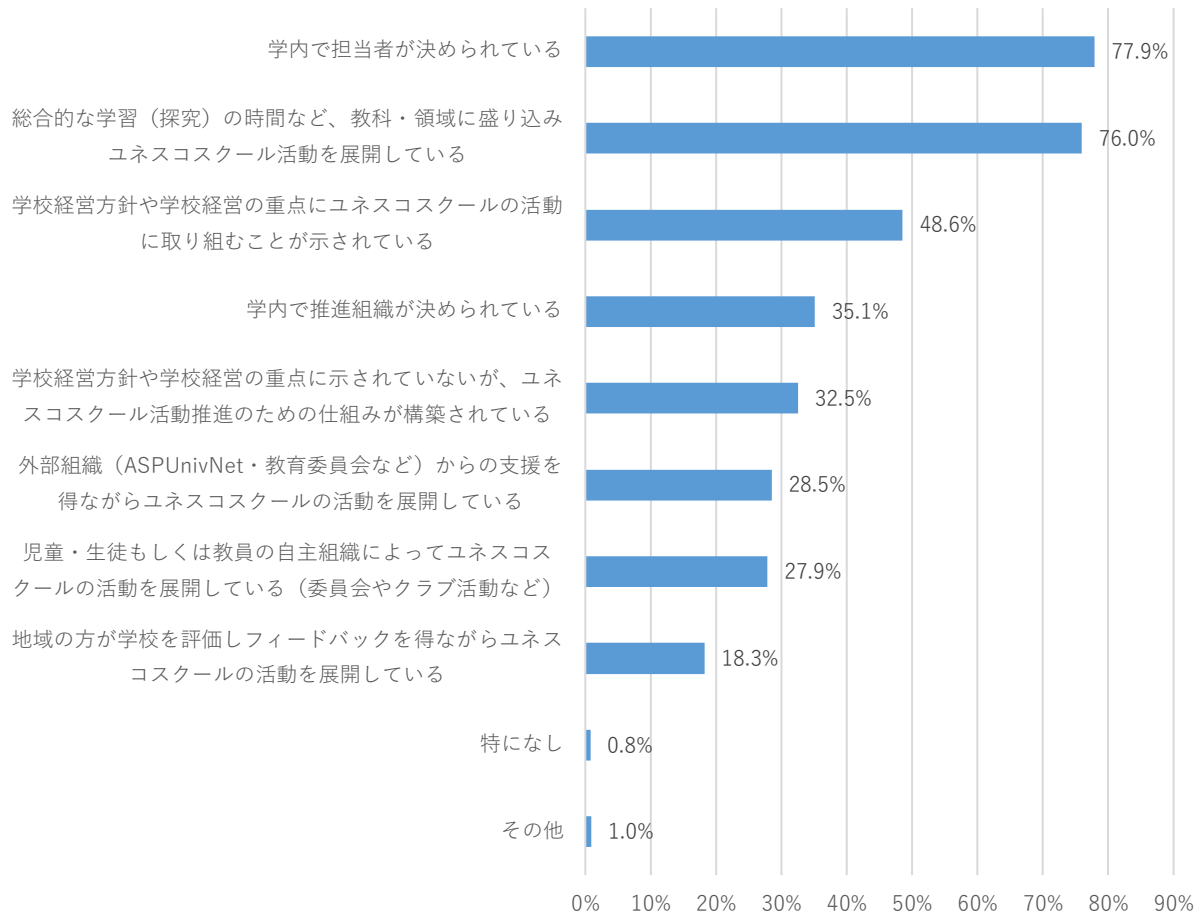
(参照:1. ① 質問2)(N=598)

図3 ユネスコスクール担当者の年齢層



(参照:1. ① 質問3)(N=595)

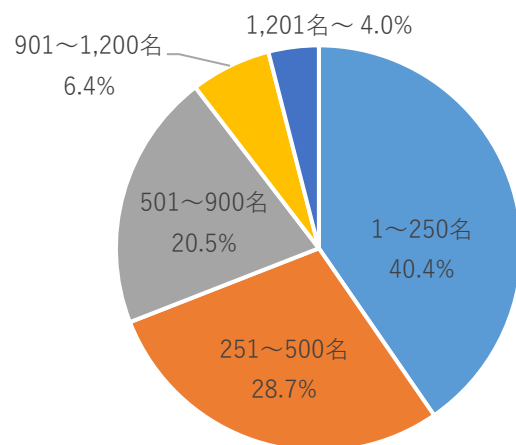
図4 学校全体で組織的・継続的に取り組むための工夫



(参照:1. ① 質問4)(N=624(※複数回答可))

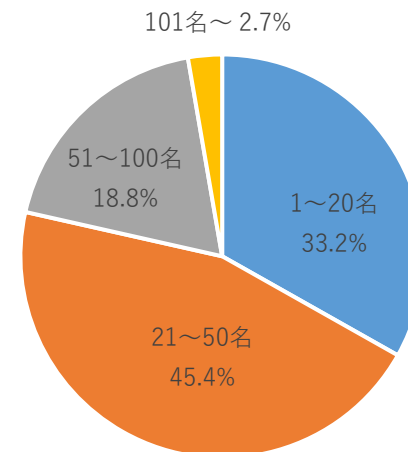
その他の回答:全ての教育活動においてESD(SDGs)と連動させた取組を推進している。ユネスコスクール・キャンディード通信を全教職員・全校生徒および保護者に随時配信して、国際デーを記念している。

図5 学校規模(幼児児童生徒数)



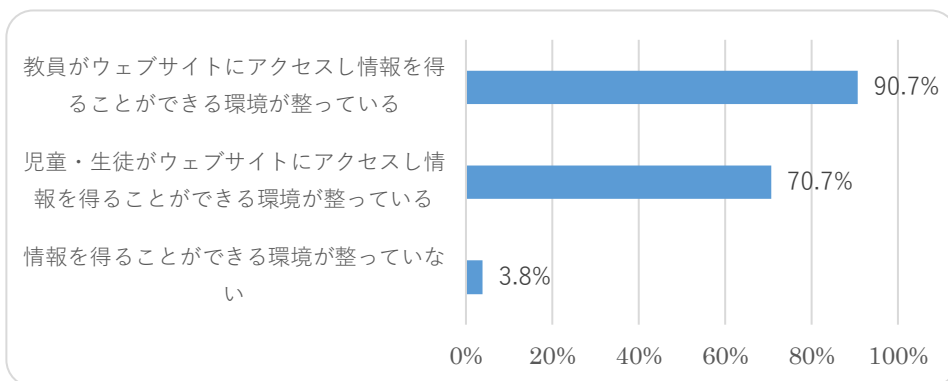
(参照:1. ① 質問5)(N=624)

図6 学校規模(教職員数)



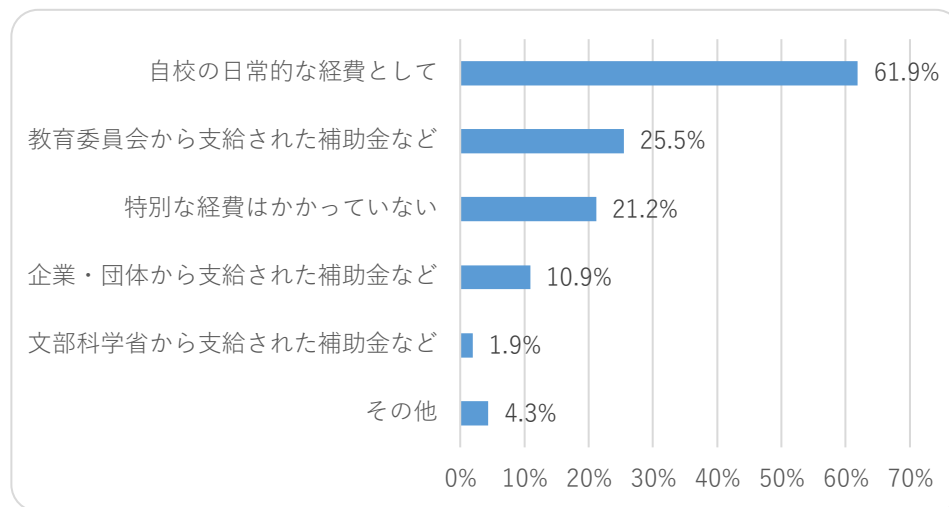
(参照:1. ① 質問6)(N=624)

図7 校内における国内外のユネスコスクールの情報を取得できるICT環境の有無



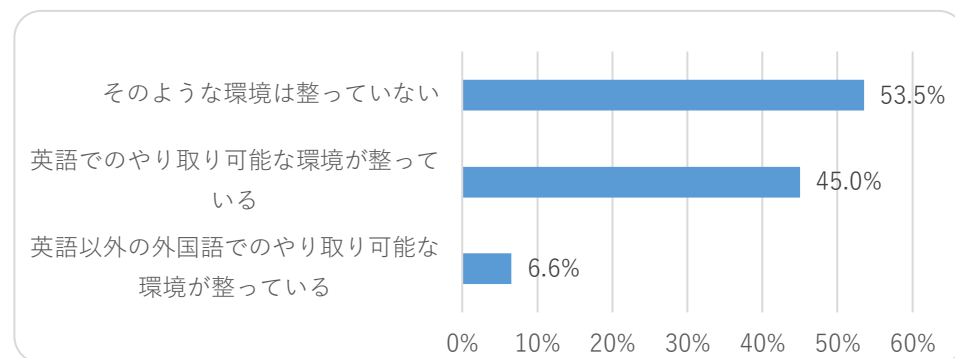
(参照:1. ① 質問7)(N=624(※複数選択可))

図9 ユネスコスクールの活動にかかる費用の検出方法



(参照:1. ① 質問9)(N=624(※複数選択可))

図8 外国語での情報発信、交流の環境整備状況



(参照:1. ① 質問8)(N=624(※複数選択可))

表1 ユネスコスクールの活動にかかる費用助成団体

主な団体/組織	
国や地方公共団体運営事業の予算	教育に関する地域の協議会
教育関連の助成をする 公益財団法人や一般社団法人	企業
JA(農業協同組合)	大学
ロータリークラブ	各校の同窓会、振興会
地域のユネスコ協会	地域の助成団体
PTA	市町村独自の社会教育団体

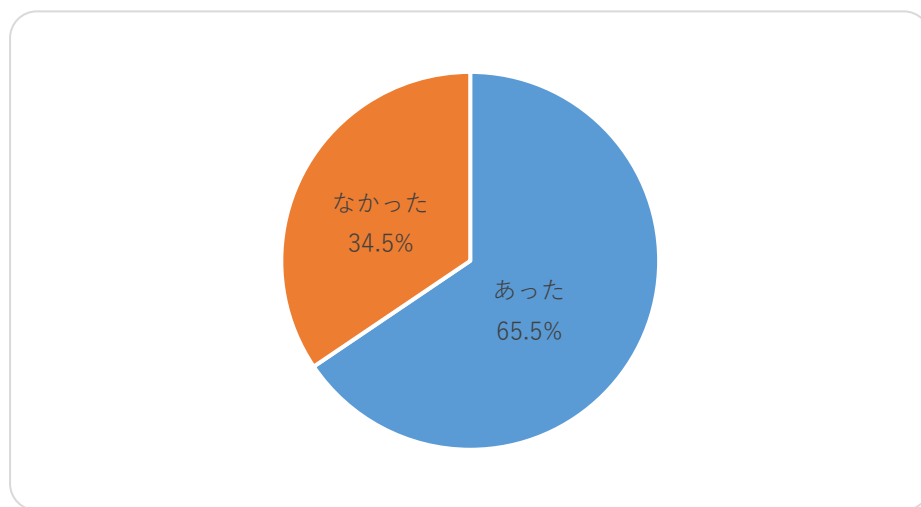
(参照:1. ① 質問 10)(N=86)

表2 新型コロナウイルス感染症の流行によるユネスコスクールの活動への影響

・ 人数や場所など活動規模の縮小または活動の中止に追い込まれた
・ 地域や外部団体の方との交流機会が減少した
・ 地域との交流(特に高齢者施設)が制限された
・ 体験的な交流や自主的な研修ができなかった
・ 公共交通機関や施設の利用に制限があった
・ 感染者数の状況悪化により計画どおりに実施できなかった
・ 国際交流がオンラインになった

(参照:1. ① 質問 12)(N=403)

図10 新型コロナウイルス感染症の流行によるユネスコスクールの活動への影響



(参照:1. ① 質問 11)(N=624)

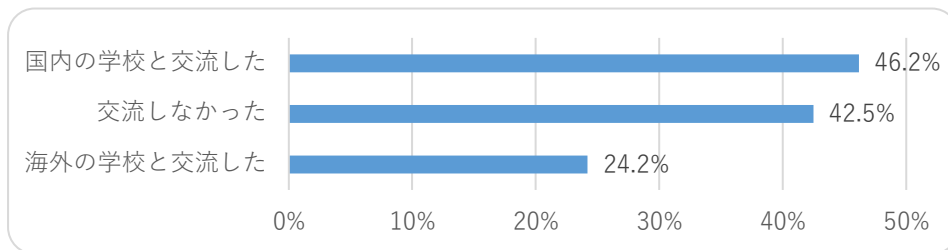
表3 コロナ禍においてユネスコスクールの活動を展開するための工夫

・ これまでの対面形式をオンライン形式に変更した
・ 人数を減らしたり場所を広くしたりするなど活動形態を工夫した
・ ガイドラインの中で教育活動の質をどう高めるかを職員で話し合いながら進めた
・ 校外に出て、文化財についての学習を行なった
・ 感染防止対策を徹底した
・ 貸切バスなどを利用して、感染対策を行なった
・ 対面交流ができなかったが、手紙やメッセージボード等を活用して交流した

(参照:1. ① 質問 13)(N=455)

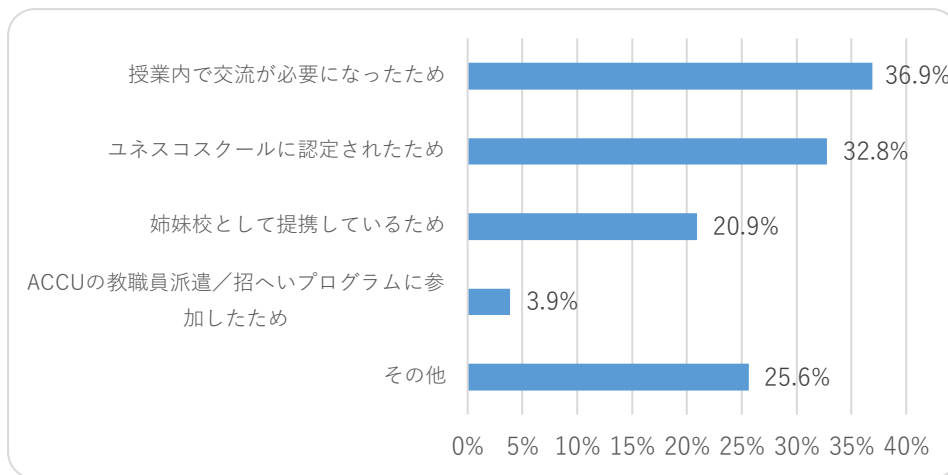
国内外の学校間交流について

図 11 国内外の学校との交流(ユネスコスクールに限定しない)



(参照:1. ② 質問 1)[N=624(※複数選択可)]

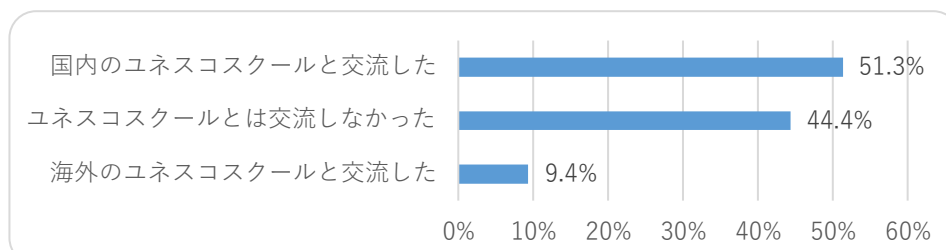
図 12 学校間交流を実施するようになったきっかけ



(参照:1. ② 質問 2)[N=363(※複数選択可)]

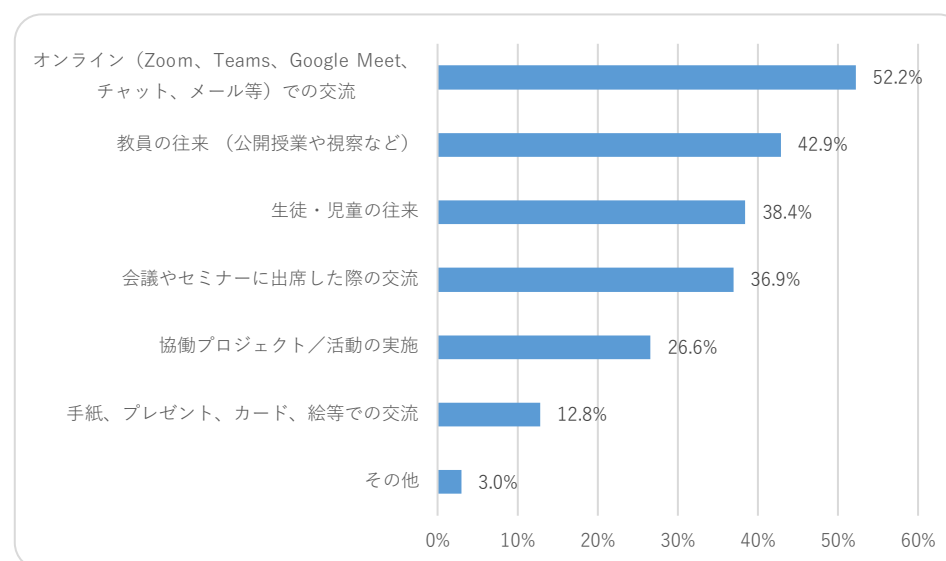
その他の主な回答:市内・県内のユネスコスクール同士が交流する場が設けられているため。県内で実施されている国際交流事業に参加しているため。東日本大震災の支援をきっかけとして開始されたため。教員同士のネットワーク。

図 13 国内外のユネスコスクールとの交流



(参照:1. ② 質問 3)[N=374(※複数選択可)]

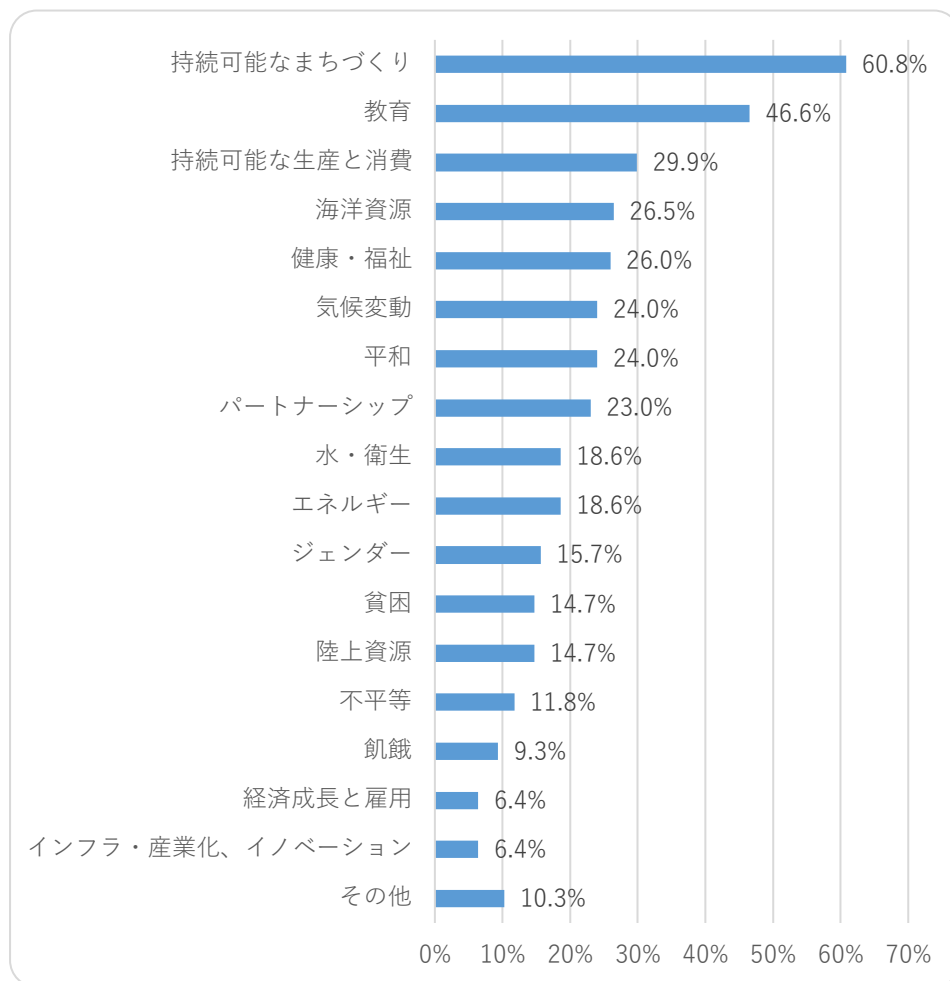
図 14 国内のユネスコスクールと実施した交流活動方法



(参照:1. ② 質問 4)[N=203(※複数選択可)]

その他の主な回答:活動報告や発表を見合う。ユネスコ・フォーラム。高校生による小学校への出張授業。県内すべてのユネスコスクールと連携。

図 15 国内のユネスコスクールと実施した交流活動内容



(参照:1. ② 質問 5) [N=204(※複数選択可)]

その他の主な回答:世界遺産の維持、被災地の支援活動とスポーツ交流、SDGs自体の理解に関する取組、食と農業の循環環境教育

表 4 国内のユネスコスクールと交流した際の主な成果

・ 生徒がお互いの研究テーマをめぐり、議論ができた
・ 同じ川の上流と下流で、環境を守っていかうと確認できた
・ 発達段階に応じた活動のあり方について考える機会となった
・ 他校の学びの視点を自校に取り入れることができた
・ 校内の防災意識が高まった
・ 他地域の素晴らしさを知ることができた
・ 実践の方向性を知ることができた

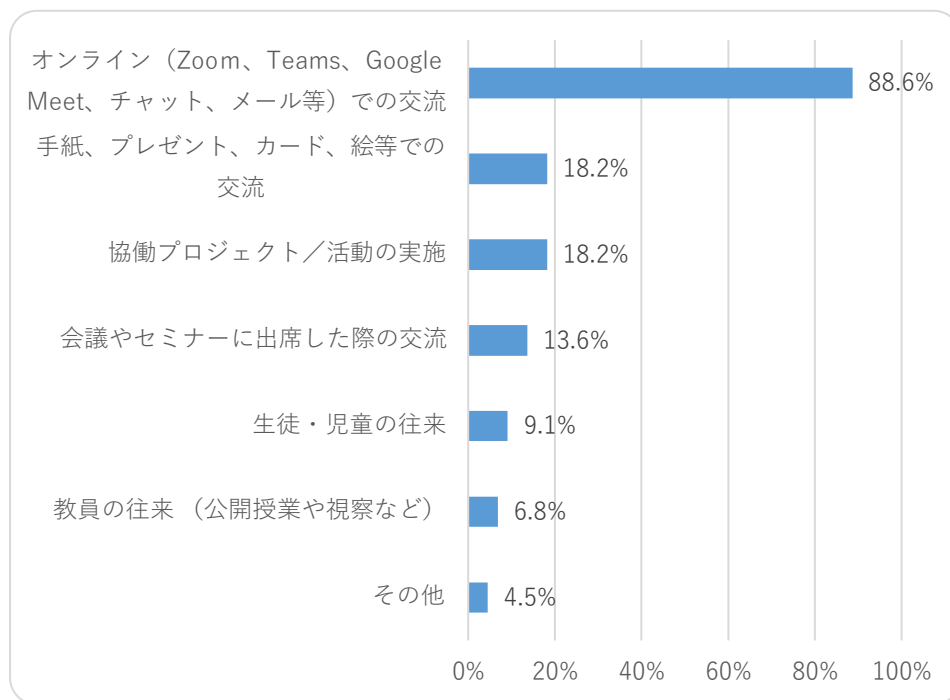
(参照:1. ② 質問 6) [N=194]

表 5 国内のユネスコスクールと交流した際の主な課題

・ 直接対面の機会をもつ場合の費用や時間の工面が必要になる
・ 教育以外をテーマとした交流を行うまでには至っていない
・ 電子機器の不具合があった
・ 地域実態が異なるため、よい取組であってもそのまま自校で行うことが難しい
・ コロナ禍において機会を創出するために各方面への配慮が必要
・ 提供できる情報を積み上げたい
・ 交流を1回限りではなく、継続的なものにすることが難しいと感じた

(参照:1. ② 質問 7) [N=168]

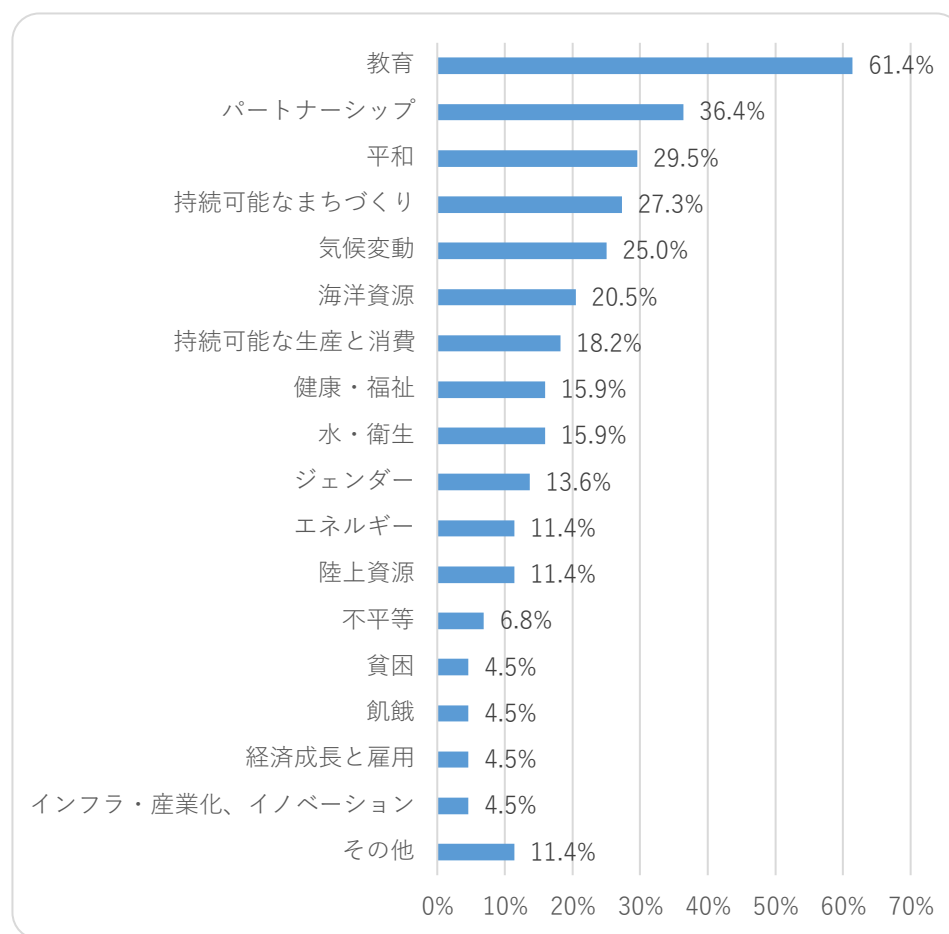
図 16 海外のユネスコスクールと実施した交流活動方法



（参照：1. ② 質問 8）〔N=44（※複数選択可）〕

その他の主な回答：探究的学習（SDGsを含む）の英語プレゼンテーション大会を主催し、タイ、マレーシアのユネスコスクールに参加してもらった。

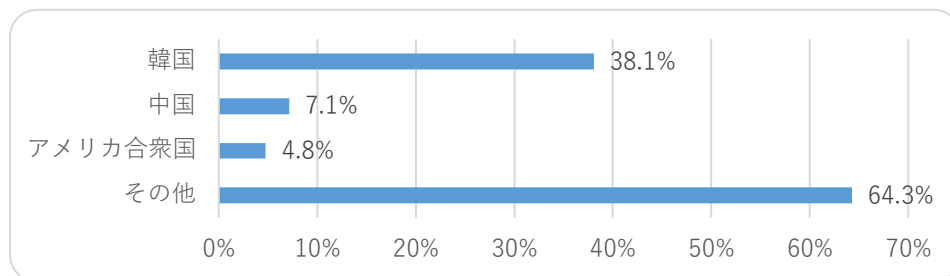
図 17 海外のユネスコスクールと実施した交流活動内容



（参照：1. ② 質問 9）〔N=44（複数選択可）〕

その他の主な回答：文化交流、学校での活動の特色紹介、コミュニケーション能力の向上

図 18 海外交流校の国、地域名



(参照:1. ② 質問 10)(N=42(複数選択可))

その他の主な回答: マレーシア、インドネシア、台湾、オーストラリア、ベトナム、タイ

表 7 海外のユネスコスクールと交流した際の主な課題

・ 相手国との時差による時間設定
・ 相手校とコミュニケーションを取るための言葉の壁
・ オンライン交流のための通信設備が整っていない
・ その後の発展が難しい
・ 共通課題を明確に絞る必要がある
・ 長期休業の時期等の年間スケジュールが違うため交流できる期間が限られている

(参照:1. ② 質問 12)(N=36)

表 6 海外のユネスコスクールと交流した際の主な成果

・ 双方の課題共有により視野のひろがりや協働し解決にむかう姿勢を持てた
・ 交流を通じた異文化理解、教育文化・手法の理解や交流
・ 多様な子供の考えや文化にふれることができた
・ 実際に訪れることが距離的、費用的に困難な国を身近に感じる事ができた
・ 文化の違いだけでなく宗教という点でも全く異なる考え方の生徒と交流が出来た
・ ジェンダーについて児童の視点で考え発言する場面が増えた

(参照:1. ② 質問 11)(N=40)

表 8 海外交流に関する情報収集先

主な団体や方法	
国/都道府県/市町村教育委員会などの 行政機関	教育関連の公益/一般財団(社団)法人 (ジャパンアートマイルなど)
地域のユネスコ協会	ユネスコスクール事務局(ACCU)
ASPUivNet	国際交流を扱っている企業
地域のユネスコスクールネットワーク	UNESCO 関連機関
姉妹都市	教員の伝手を活かしたネットワーク作り

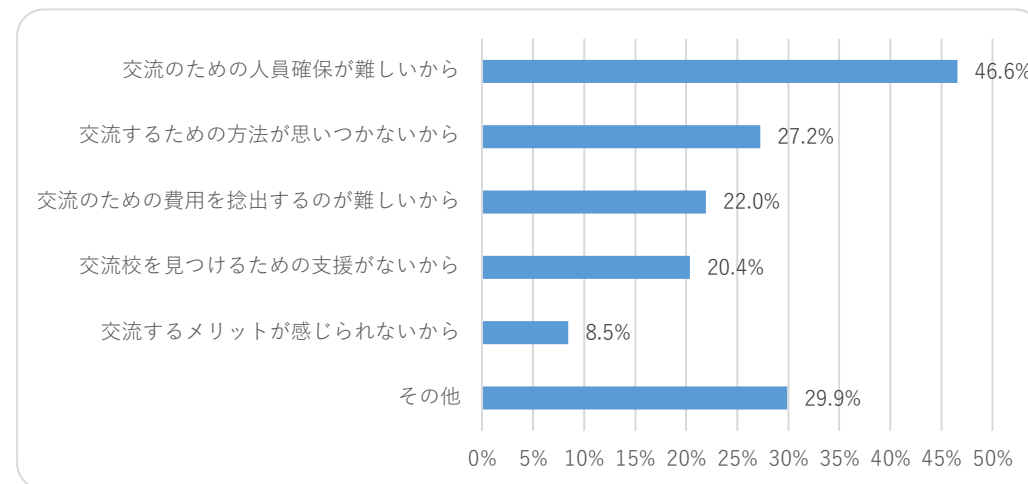
(参照:1. ② 質問 13)(N=42)

表 9 海外交流に関する支援団体/ネットワーク

団体名	
国/都道府県/市町村教育委員会などの 行政機関	教育関連の公益/一般財団(社団)法人 (ジャパンアートマイルなど)
地域のユネスコ協会	ユネスコスクール事務局(ACCU)
UNESCO 関連機関	国際交流関連機関
国内外の大学	

(参照:1. ② 質問 14)[N=32]

図 19 交流しなかった理由

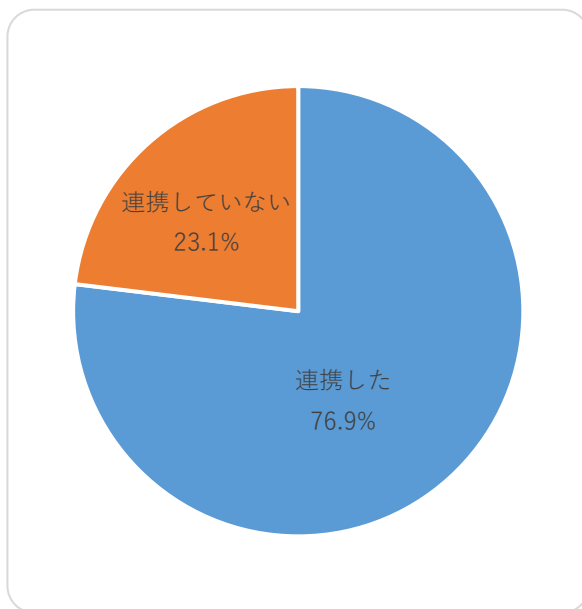


(参照:1. ② 質問 15)[N=378(※複数選択可)]

その他の主な回答: 交流のための情報交換が十分ではなく、交流まで進めることが出来なかった。学校以外の機関との交流を積極的に行なったため、交流する時間の確保ができなかった。交流したいと思う学校がユネスコスクールに加盟していないことが多い。他園・学校との交流は、現時点の活動計画に組み込まれていない。

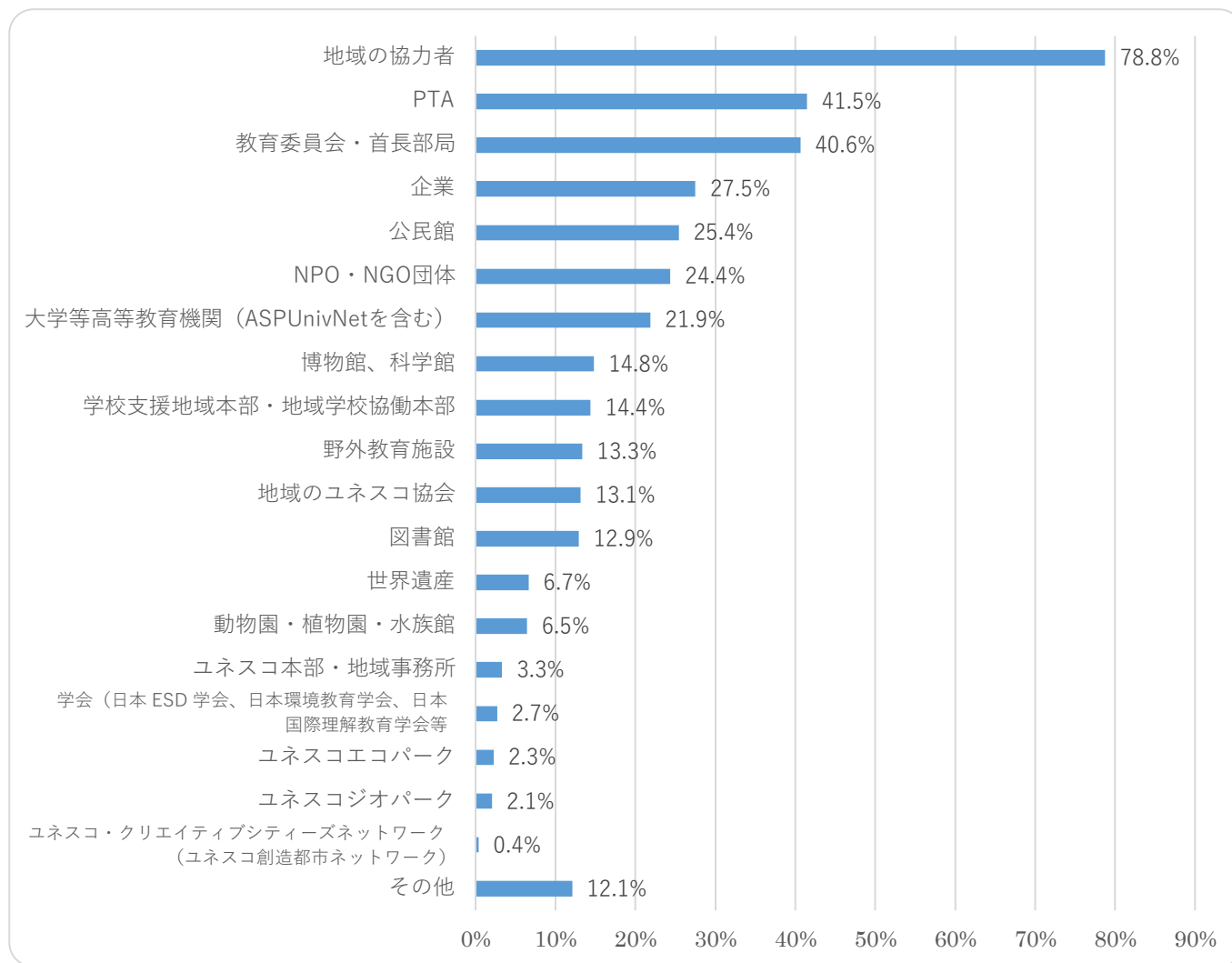
学校以外の団体との協働について

図 20 学校以外の団体との連携の有無



(参照:1. ③ 質問 1)(N=624)

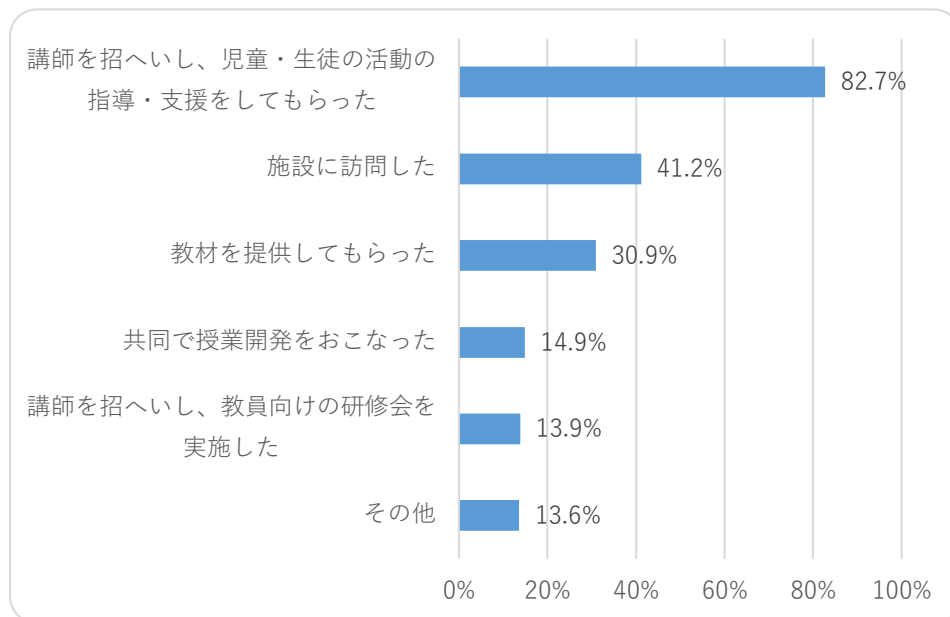
図 21 連携先の団体



(参照:1. ③ 質問 2)(N=480(複数選択可))

その他の主な回答:地方公共団体、国の機関、地域の公的機関や施設、教育に関連する団体

図 22 学校以外の団体との連携内容



(参照:1. ③ 質問 3)[N=469(複数選択可)]

その他の主な回答:小学校・中学校生徒向けのイベントを共催した。生徒の活動の安全確保を行なった。交流校を紹介してもらった。世界遺産現地学習での児童向けガイドをもらった。

表 10 外部団体と交流することになった主なきっかけ

・ 教育委員会からの提案, SGHとしての活動
・ 掲示板や回覧板、学校通信での呼びかけ
・ 町おこし活動への協力者がいないか打診を受けた
・ 団体のホームページを参照し、問い合わせた
・ ASPnet、姉妹校交流、教職員の個人的なつながり

(参照:1. ③ 質問 4)[N=432]

表 11 外部団体と交流したことによる主な成果

・ 学校と地域との結びつきを強化できた
・ 学校の資源ではできない多様な活動ができた
・ 専門的な知識を得ることで理解が深められた
・ 児童生徒の学習意欲が向上した、生徒の視野が広がった
・ 外部の方との交流を通して、思いやりや感謝の気持ちがより育まれた
・ 障害のある方に対する眼差しが変化した
・ 豊富な知識や経験をもとに専門的な見地から指導・支援していただき、質の高い活動ができた

(参照:1. ③ 質問 5)[N=430]

表 12 外部団体と交流したことによる主な課題

・ 先方との日程調整や交流時間の確保
・ 今後も交流を継続させるための工夫
・ 交流の意義や目的を明確化し、関係者間で共有すること
・ コロナ禍による活動内容の制限
・ 必要経費の捻出
・ 実際に交流するまでの教員の負担が非常に大きい

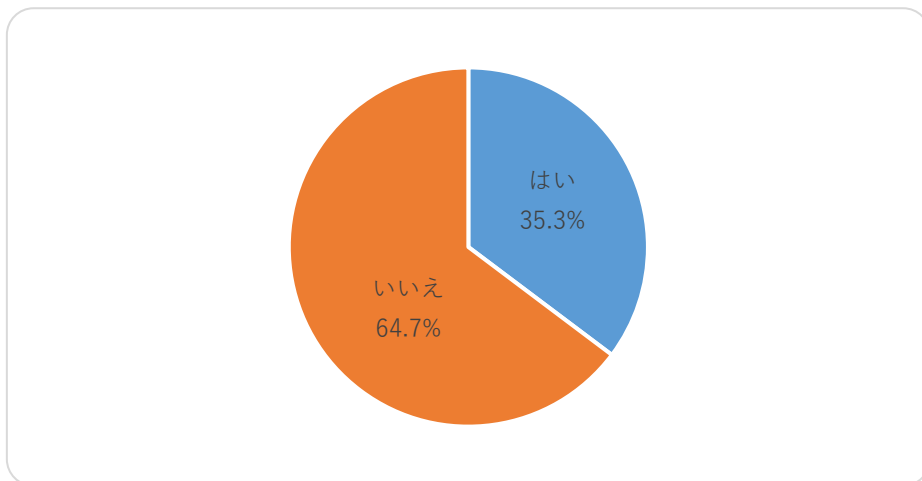
(参照:1. ③ 質問 6)[N=385]

表 13 研修会を主催していた主な団体

団体名	
国/都道府県/市町村教育委員会など 行政機関	ユネスコスクール事務局(ACCU)
学会や研究会	ESD 活動支援センター
NPO/NGO	日本 ESD 学会
ASPUivNet、大学機関	各地の ESD コンソーシアム
日本ユネスコ協会連盟、地域のユネスコ協会、 地域のユネスコ連絡協議会	ユネスコスクール地域ネットワーク
企業	ESD 地域拠点(RCE)
ユネスコ関連機関、国際機関	教育関連の公益/一般財団(社団)法人

(参照:1. ③ 質問 8)[N=201]

図 23 校外におけるESD・ユネスコ活動に関する研修への参加の有無

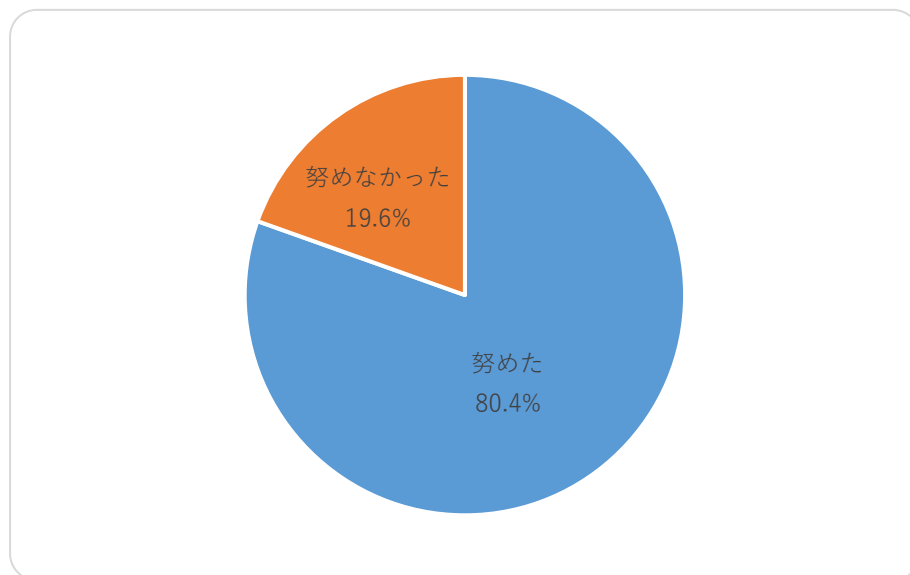


(参照:1. ③ 質問 7)[N=624]

- **質問9の回答結果**につきましては、ユネスコスクール事務局にてイベント情報収集のための参考とさせていただきます。

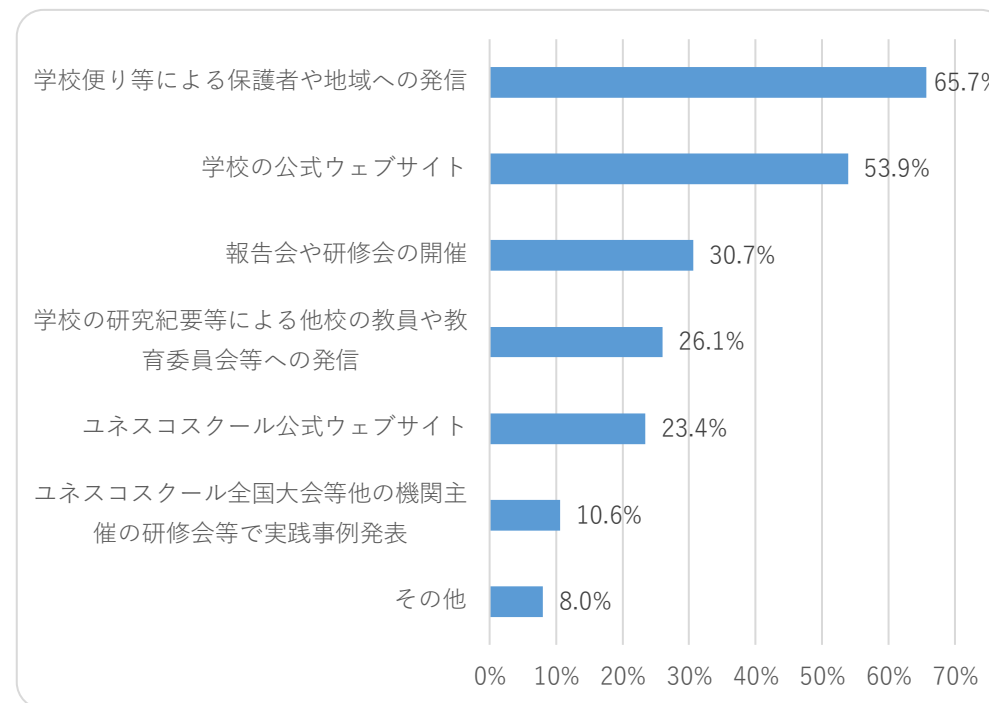
ESD の推進拠点としての活動成果の発信

図 24 ユネスコスクールに係る教育活動の実践等の発信、理念の普及



(参照:1. ④ 質問 1)(N=624)

図 25 成果の発信・普及方法



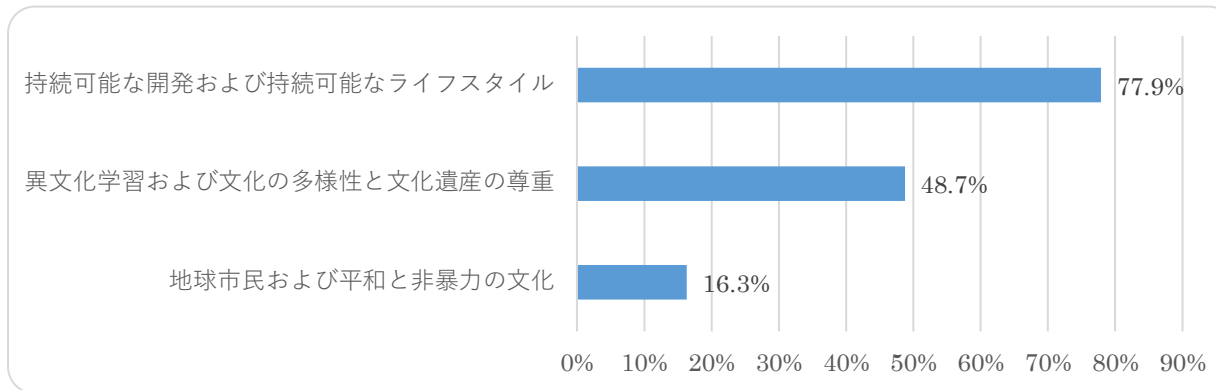
(参照:1. ④ 質問 2)(N=499(※複数選択可))

その他の主な回答:地域のイベントやショッピングセンターでのチラシ配布及び掲示、地元の情報誌・メディア・企業のホームページや SNS、地元新聞社に取材を依頼し、記事にて掲載

ユネスコスクールとしての活動の成果

ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野

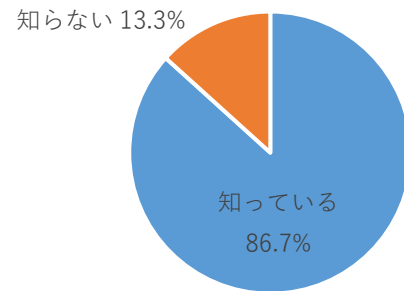
図 26 ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野のうち、特に活動成果のあるもの



(参照:2. ① 質問1)[N=624(複数選択可)]

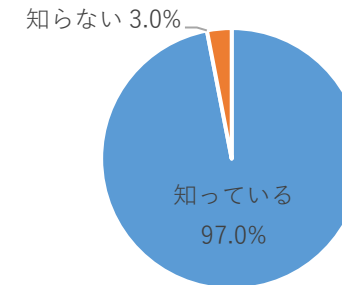
ESD と SDGs の関係に関する認知度

図 27 「ESD:SDGs 達成に向けて(ESD for 2030)」の認知度



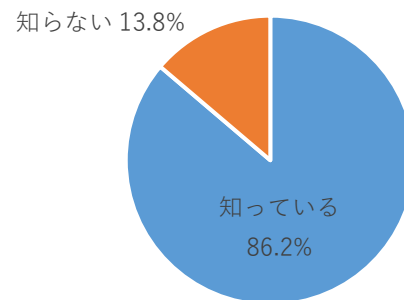
(参照:2. ② 質問 1)[N=624]

図 29 新学習指導要領(小中高等学校)又は新幼稚園教育要領前文における ESD に関する文言の明記の認知度



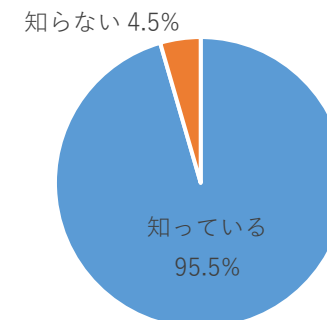
(参照:2. ② 質問 3)[N=624]

図 28 SDGs 目標 4(教育)ターゲット 4.7 の認知度



(参照:2. ② 質問 2)[N=624]

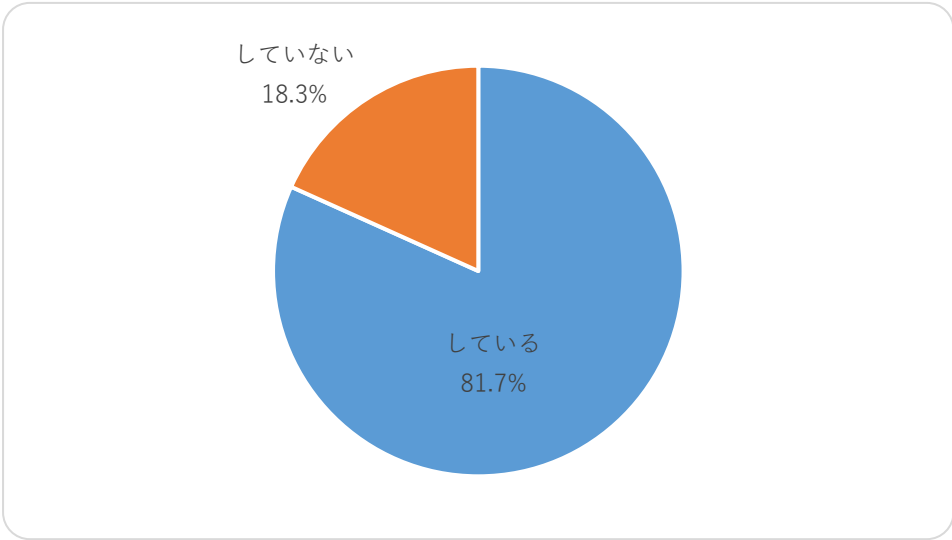
図 30 ESD と SDGs17 のゴールの関連性に関する認知度



(参照:2. ② 質問 4)[N=624]

ユネスコスクールとしての活動による変化

図 31 ユネスコスクールにおける教育活動を通じた育みたい資質・能力の明確化



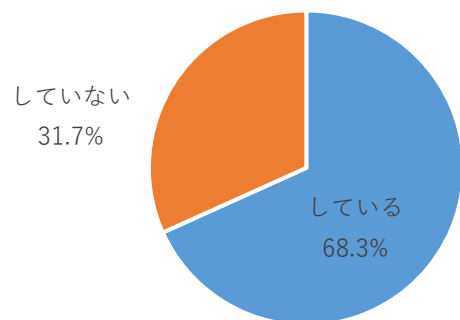
(参照:2. ③ 質問1(1))(N=624)

表 14 ユネスコスクール活動を通して身についた主な資質・能力

主な資質・能力	
地域伝統文化継承への意欲	つながりを大切にする力
コミュニケーション力	課題解決力
地球市民意識	自然との共生感と循環意識
地域社会へ貢献しようとする力	奉仕の精神
他者を尊重する態度、協調性	批判的思考力
自発的な行動力・発信力	プレゼンテーション力
粘り強さ	情報を収集・分析・発信する力
環境保護への意識	思いやりや助け合いの心
社会規範	物事を受容する態度
多面的・総合的に考える力	未来像を予測して計画を立てる力
外国の文化や言語への興味・関心	SDGs に対する理解
論理的、科学的思考力	企画運営等の実践力
課題発見・設定力	平和の尊重
使命感の育成	課題の内面化
多様性の理解・尊重	主体的に学びに向かう態度
前向きで肯定的な姿勢	地域への愛着
世界的視野の獲得	持続可能なライフスタイルの実践
人権意識の醸成	課題追及力
表現力	チャレンジしようとする心

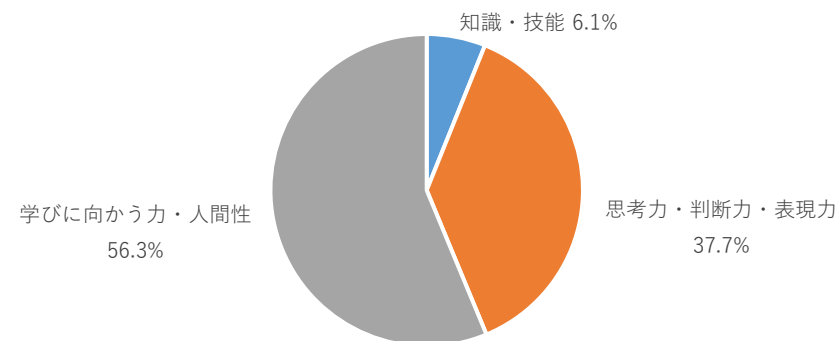
(参照:2. ③ 質問1(2))(N=306)

図 32 ユネスコスクールにおける教育活動を評価するための工夫



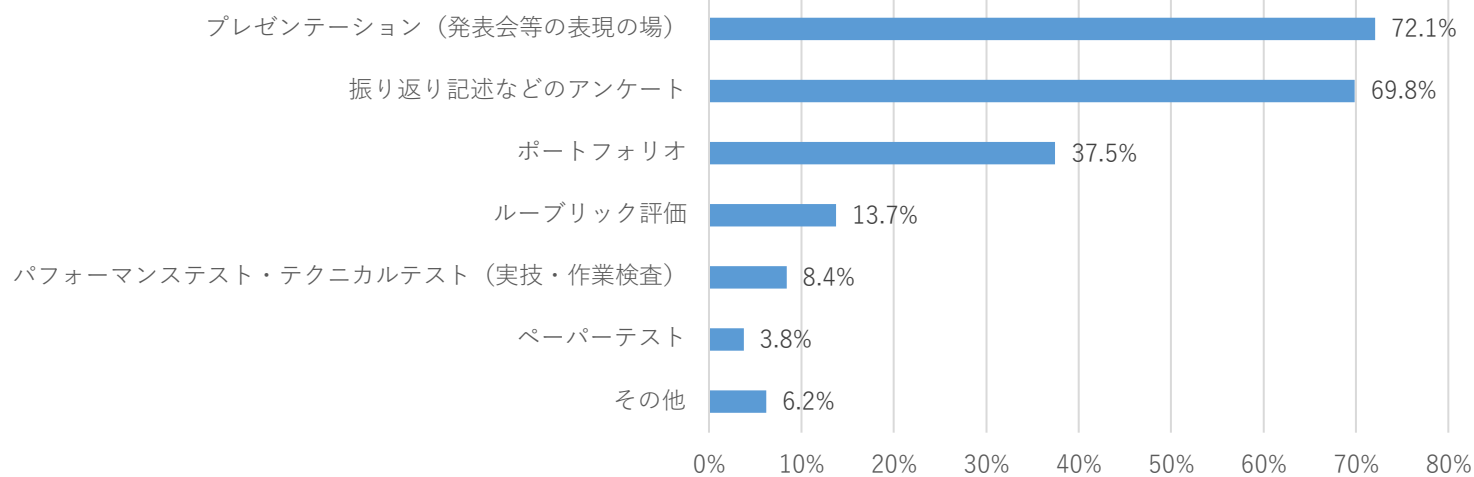
(参照:2. ③ 質問1(3))[N=624]

図 34 最も変化の見られた「資質・能力の三つの柱」



(参照:2. ③ 質問1(5))[N=624]

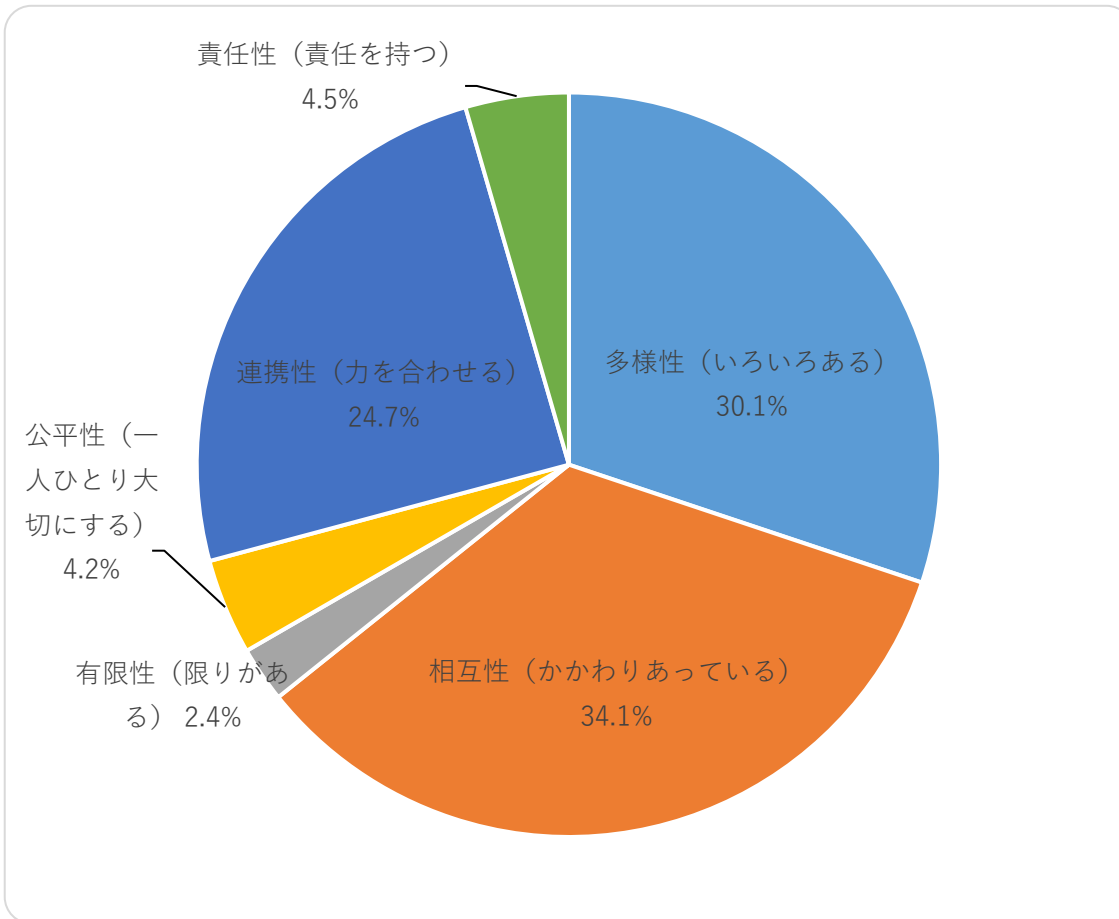
図 33 ユネスコスクールにおける教育活動を評価するための評価方法



(参照:2. ③ 質問1(4))[N=451(複数選択可)]

その他の主な回答:保護者へのアンケート、成果発表、ESD パスポート

図 35 最も変化の見られた持続可能な社会づくりを構成する6つの視点



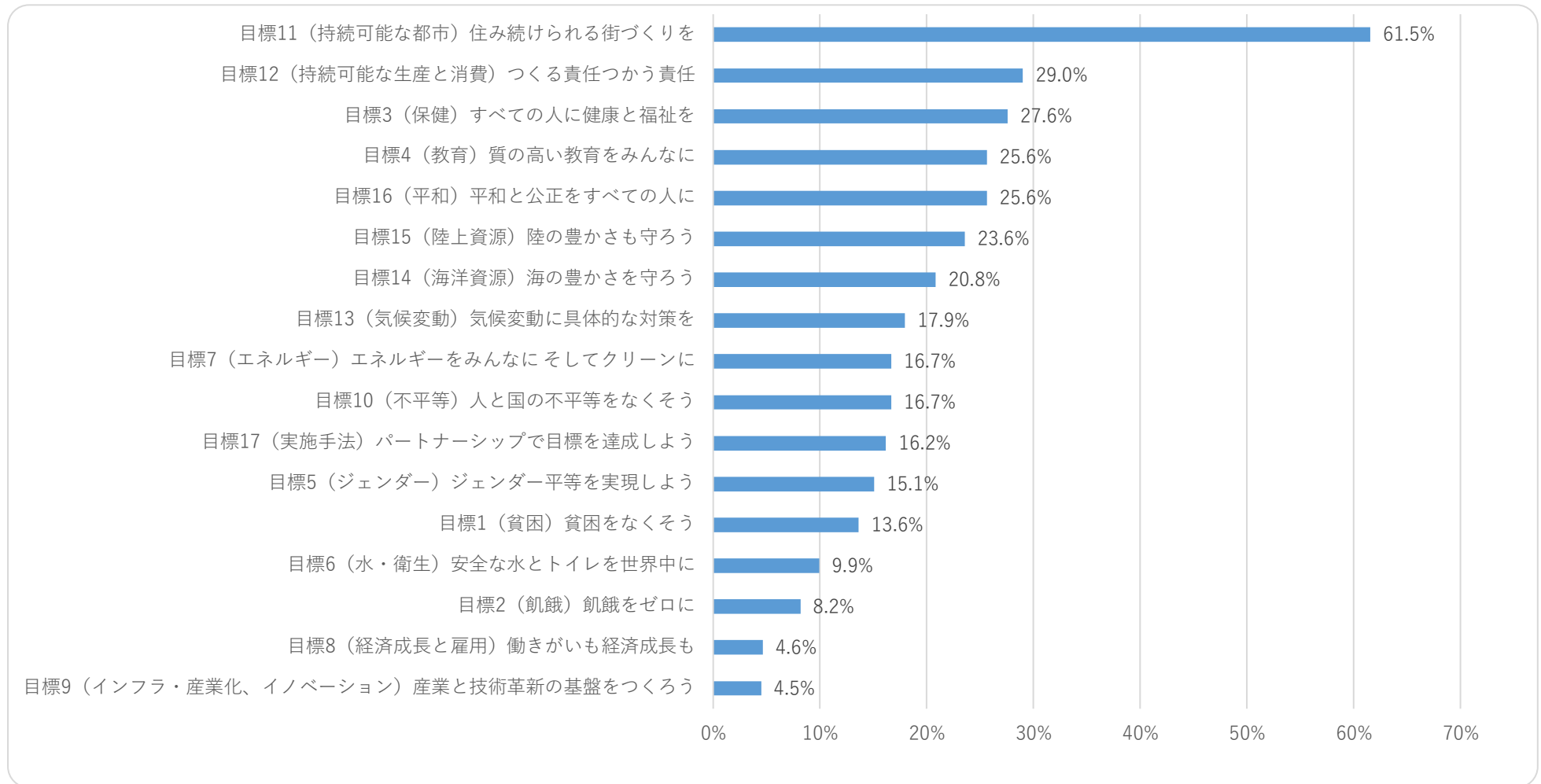
(参照:2. ③ 質問1(6))(N=624)

表 15 児童生徒の変化を促した主なきっかけ

・ 総合的な学習や探究の時間での体験学習を通した学び
・ 地域とのつながりがある教育活動を行なったこと
・ 訪問先での、普段接しない人々との交流活動
・ 国際・福祉・環境・平和・海洋・防災教育など、SDGsに関わる教育活動
・ 児童生徒主体の学習活動
・ 発表会など、成果を表現する機会を設けたこと
・ 各科目でのルーブリックの活用

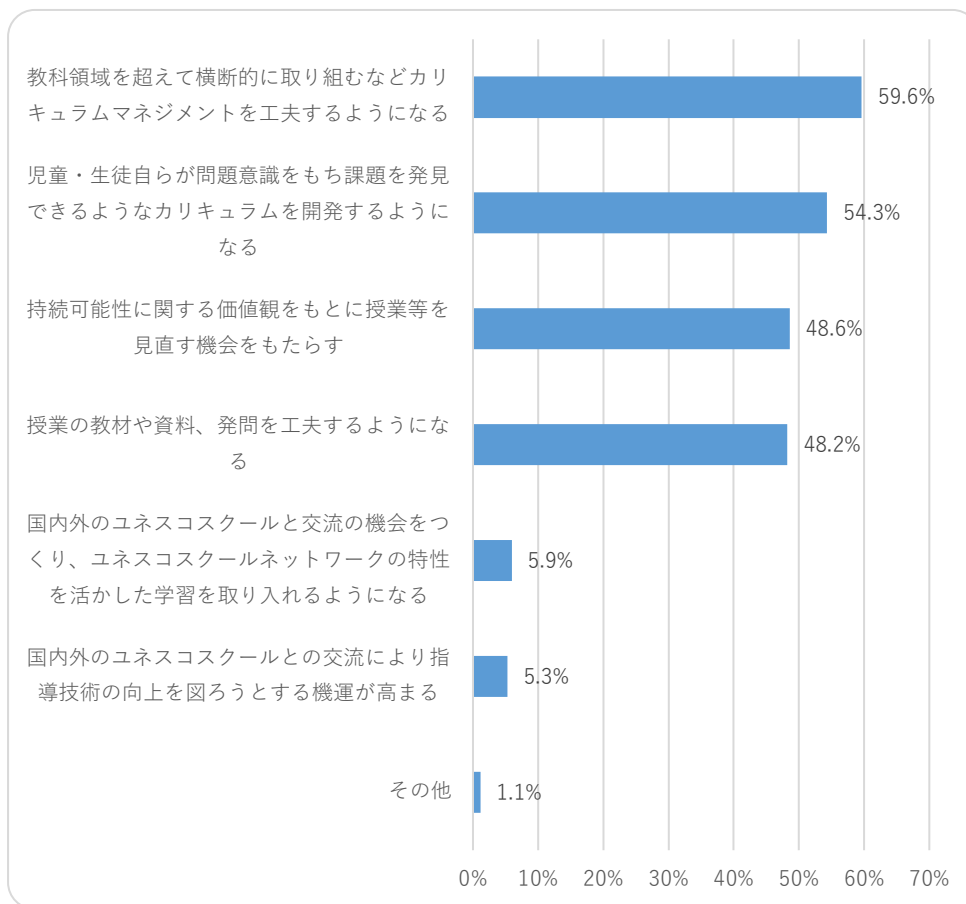
(参照:2. ③ 質問2)(N=327)

図 36 ユネスコスクールの教育活動で取り上げた SDGs17 の目標



（参照：2. ③ 質問3）〔N=624（※上位3つまでを選択）〕

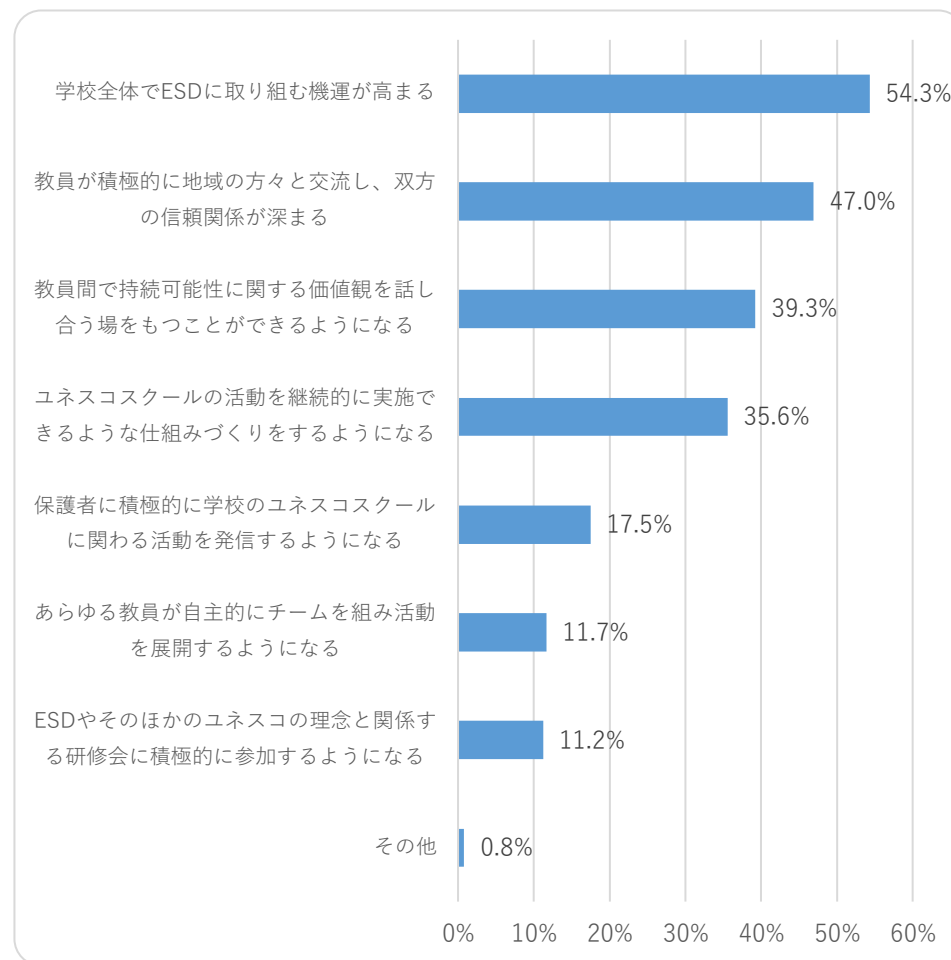
図 37 ユネスコスクールの教育活動による教員のカリキュラム・教授法の変化



(参照:2. ③ 質問 4(1))[N=624(※複数回答可)]

その他の主な回答:外部人材の積極的に活用するようになる、生徒の様々な活動がSDGsに結びつく活動であることを意識するようになる

図 38 ユネスコスクールの教育活動による教員の学校運営の変化



(参照:2. ③ 質問 4(2))[N=624(※複数回答可)]

その他の主な回答:地域の教材化によって魅力を発信するようになる、保護者と教員が協力してチームを組み活動を展開する

表 16 教職員の変化を促した主なきっかけ

・ 地域を巻き込んだ学習活動/地域清掃/地域のボランティア活動への参加
・ 総合的な学習の時間の活用
・ 学習発表の機会を設けたこと
・ 校内研修
・ 校内研究会の実施
・ 校外研修/学校間交流/他校とのオンライン交流授業
・ 地域の人材を活かした授業づくり
・ ESDに関する研修の受講およびその後の授業実践
・ 学校間、地域内の連携
・ 取組について発表し、話し合う機会を設けたこと
・ ユネスコスクール地域ブロック大会
・ 大学や企業、外部団体との連携等を通じて、個別の教育活動を学校経営として位置付ける視点が生まれた

(参照:2. ③ 質問5)[N=254]

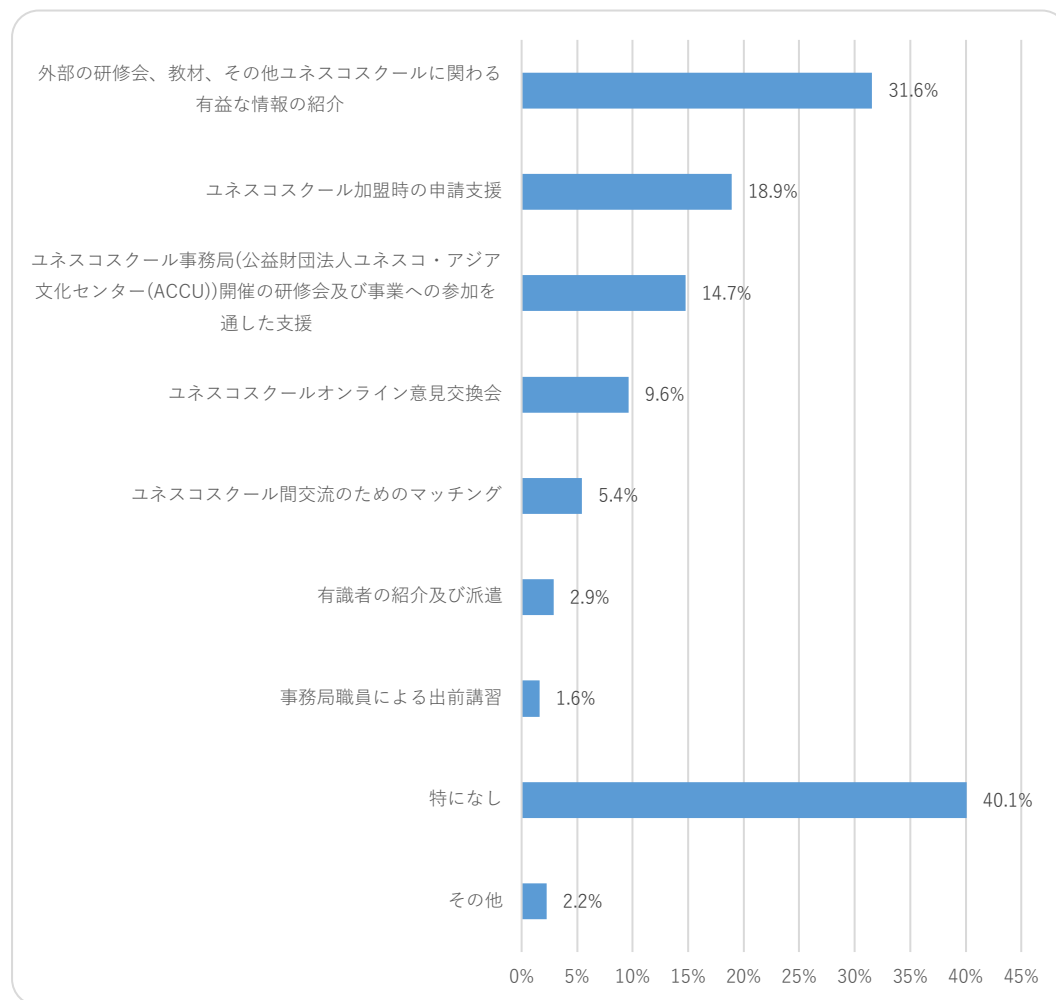
表 17 教職員の活動意欲が向上した主な取組

・ 外部講師の研修会実施/探究学習コーディネーターによるワークショップ
・ ESD重点項目の掲示(職員室)
・ 外部への活動発表の機会を設けること
・ 地域人材と協働した実践づくり
・ 教員間の交流(校内、地域内、海外)
・ 校内研究授業, 事後研究会, 研究発表会
・ 第三者からの評価
・ 教科横断的な授業実践づくり
・ 総合的な学習の時間の活用
・ 生徒と共同した取り組み
・ 企業が主催するプロジェクトへの参加
・ 教科横断的な学習活動の再構築
・ 行政との細かな連携

(参照:2. ③ 質問6)[N=190]

ユネスコスクール支援の利用状況

図 39 ユネスコスクール事務局の利用状況



(参照:3. 質問 1)[N=624(※複数回答可)]

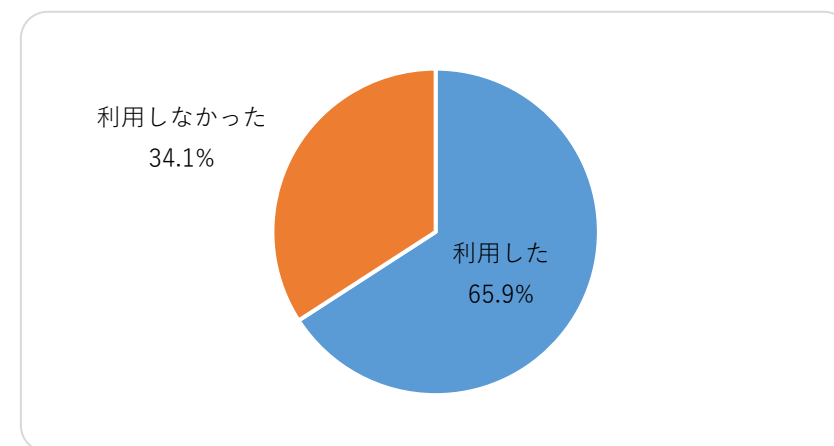
その他の主な回答:活動報告作成の際のログイン方法等についての支援生徒作成の教材の掲載

表 18 ユネスコスクール事務局に求める支援内容

・ 活動費用に対する支援
・ 講師派遣、出前授業や研修会の開催
・ 外部イベントや海外のユネスコスクルー覧など、各種の情報提供
・ 実践例や映像資料の提供
・ 支援メニューの明示化
・ 活動報告書の提出方法の簡素化

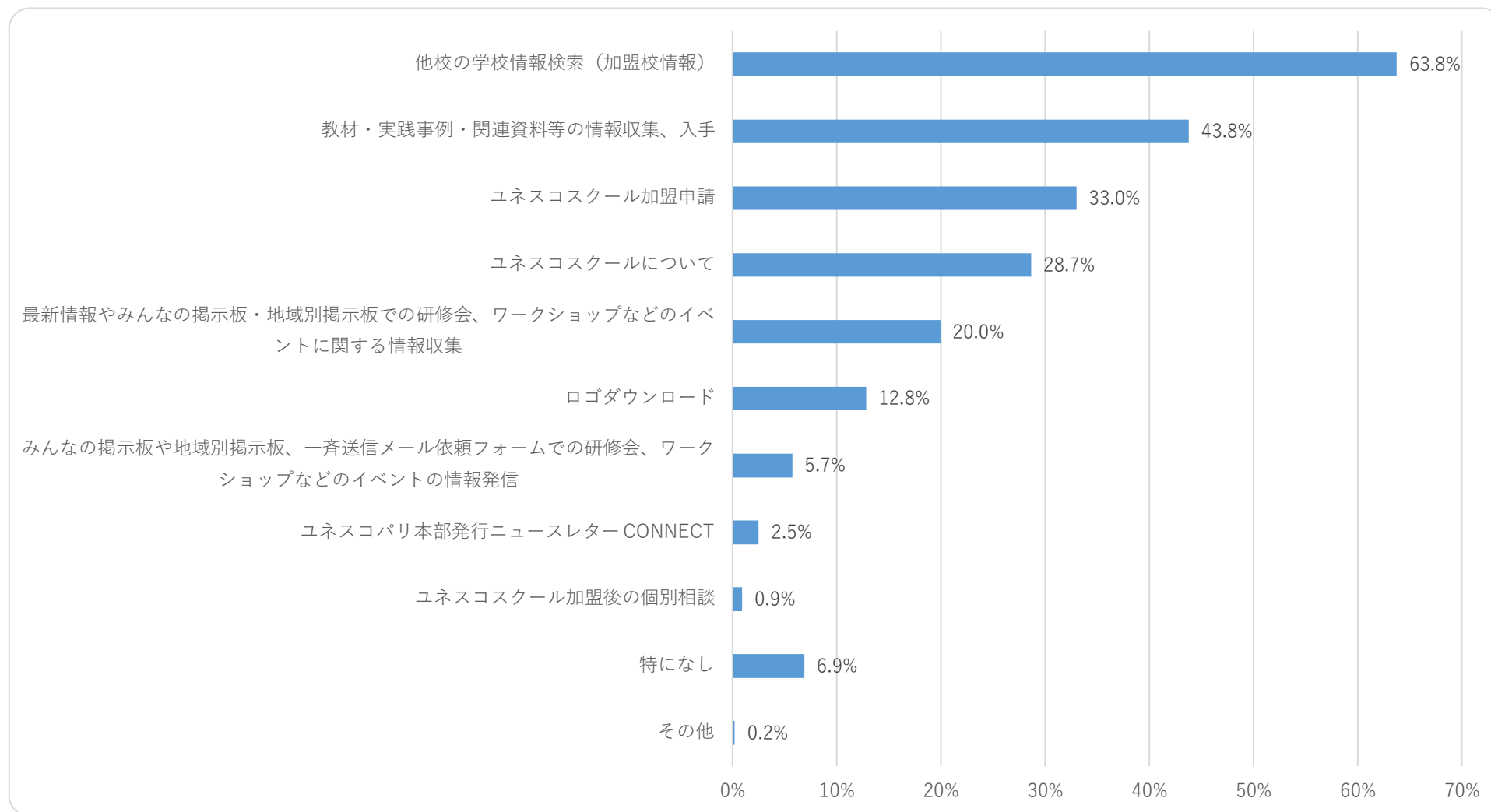
(参照:3. 質問 2)[N=133]

図 40 ユネスコスクール公式ウェブサイトの利用状況



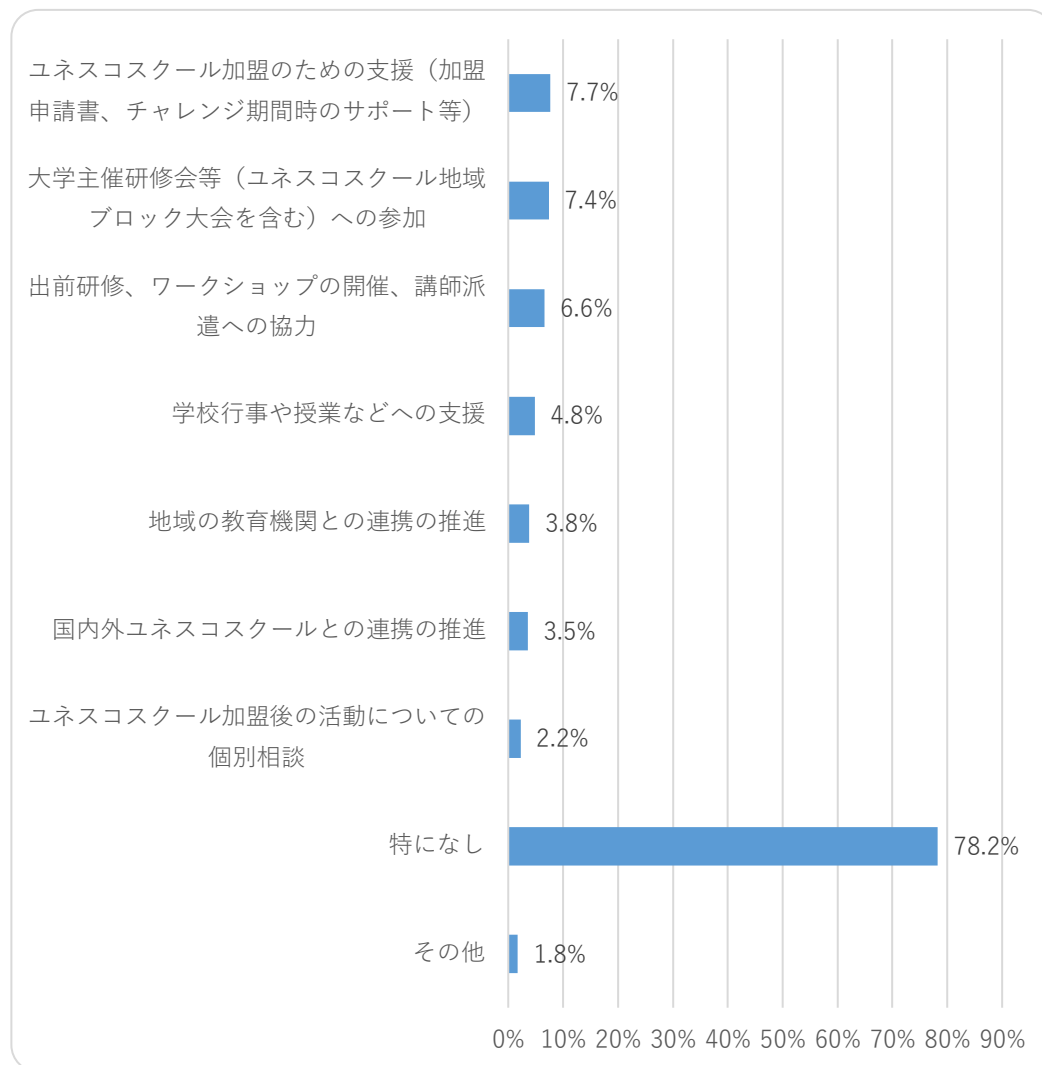
(参照:3. ③ 質問 3)[N=624]

図 41 ユネスコスクール公式ウェブサイト機能の利用状況



（参照：3. 質問 4）〔N=436（※複数回答可）〕

図 42 ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUivNet)からの協力・支援内容



（参照：3. 質問 5）〔N=624（※複数回答可）〕

表 19 質問5「その他」を選択した場合、簡潔にご記入ください。

・ 授業の中で ESD に取り組む興味・関心をひく導入についての助言
・ 留学生との文化交流活動の実施
・ ユネスコスクール・SDGs/ESD 交流会における講師助言
・ 気候変動教育や地球市民教育プロジェクトでの協働
・ 学校外のユネスコスクールに関わるイベントでの講師依頼
・ ASPUivNet 共同研究の企画・実施

（参照：3. 質問 6）〔N=13〕

制作

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-32-7F 出版クラブビル

E-mail: webmaster@accu.or.jp URL: <http://www.accu.or.jp>

ユネスコスクール公式ウェブサイト: <https://www.unesco-school.mext.go.jp/>

令和 4(2022)年度 ユネスコ未来共創プラットフォーム事業の一環として文部科学省の委託を受けて作成しております。